

岐阜県で越冬するハクチョウ類

山崎 歩

529-0365 滋賀県長浜市湖北町今西

琵琶湖水鳥・湿地センター／湖北野鳥センター

滋賀に住んでいる私が、隣県岐阜で越冬するハクチョウ類に興味を持ったのは、いくつかの「キーワード」がきっかけでした。

そのキーワードとは、職場である湖北野鳥センターにコハクチョウを見に来られる中京圏のお客さんが時々言われていた「養老（名神高速養老 SA～養老 JCT）あたりの田んぼにハクチョウがいるのを見かけた」、「木曾川を渡るときにハクチョウが見える」、「関ヶ原の上空をハクチョウが飛んでいるのを見た」など、岐阜県内に越冬しているハクチョウ類がいそうな情報ですが、なかなか実情はわからないままでした。

日本白鳥の会で「白鳥重要越冬地100選」が決まっていく中で、リストにない地域でもハクチョウ類が確認されているところがあるという話題もあり、2014年度の冬季に情報を集め、現地を見に行ってみることにしました。

まずネットで検索して見つけた岐阜県のホームページには、オオハクチョウ、コハクチョウともに「県内では数回の観察記録があるだけ」とありました。

しかし、平成24年～26年の全国一斉ガンカモ調査結果を見ると、コハクチョウがH24年60羽、H25年107羽、H26年13羽確認されていて、H25年にはオオハクチョウ2羽も確認されています。

安定した数が飛来しているのではないようにも思えますが、定期的に飛来しているようです。

もう少し詳しく知るために岐阜県内で鳥を見ている人に聞いてみようと、岐阜大学生物科学研究会OBの方に連絡してみました。新たな情報はなく、インターネットで新聞記事や個人のブログなどを探すことにしました。

まず養老地域のハクチョウ類について探してみました。

いくつかのホームページやブログが見つかった中に「国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所 揖斐川第二出張所」が発行している広報を見つけました。

平成25年度(2014年1月)と平成26年度(2014年12月)にコハクチョウの飛来を確認、という記事が掲載されていました。【PDF 揖斐川第二出張所(2014年12月27日付)】

(※揖斐川周辺は立ち入り禁止区域内にコハクチョウが入ることもあり、観察できない場合もあります。観察時には立ち入り禁止区域に入らないようにお願いします。)



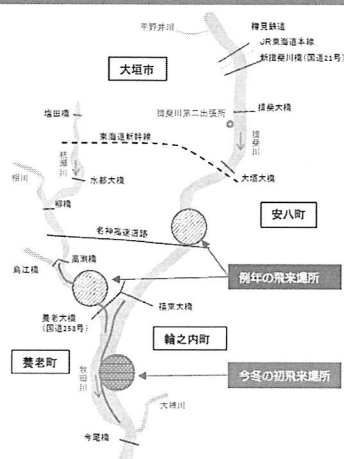
水面で羽根を休めるコハクチョウ = 揖斐川30.6Kp付近(轡之内町塩嶺地先)

シベリアから冬の使者 『揖斐川にコハクチョウ初飛来!』

- ・ 揖斐川中流部で12月27日(土)、コハクチョウ3羽が飛来しているのが確認された。昨冬に比べて約3週間早い初飛来となった。国土交通省揖斐川第二出張所の河川パトロールを務める臼井正文河川巡視員がこの日の朝、揖斐川に飛来してきたのを確認した。

臼井さんは「例年、年明けの1月中旬頃に初飛来してくるが、こんな早い時期に見るのは初めて。毎年、揖斐川では名神高速道路より上流でコハクチョウの姿を見掛けるが、今年はそれより5キロ下流の場所」と首を傾げ、「昨年12月は例年より寒かったので、早めに飛来してきたのかも知れない。あまり一般的に知られていないが、揖斐川中流部はコハクチョウの姿を間近で見られる川なので、多くの人に観察に来てほしい」と話した。

例年であれば、2月末頃まで見られるという。



【PDF 揖斐川第二出張所(2014年12月27日付)】



カワウの営巣地付近で水面を泳ぎ回るコハクチョウの群れ 〓 穂之内町塩嶺地先



撮影：平成27年1月11日

コハクチョウQ&A

出典：米子水鳥公園ホームページなど

Q1. コハクチョウってどんな鳥？

A. コハクチョウはカモ科の水鳥で、体長120cm、翼を広げると190cmにもなる大きな鳥です。「日本書紀」や「出雲風土記」にも登場し、日本人が昔から愛し、なじみ親しんできた鳥です。日本で見られるハクチョウには、コハクチョウと、より大きなオオハクチョウの2種類がいます。

Q2. 色の違うハクチョウがいるけど？

A. 灰色のハクチョウは、夏にロシアのツンドラ地帯で生まれた子供のコハクチョウです。親鳥と同じ大きさですが、まだ産まれてから一年経っていません。それでも5000kmもの距離を渡って日本へやってきました。

Q3. ハクチョウは何を食べるの？

A. ハクチョウは主に草食です。おもに水草、その他の草の根、実などを食べます。

Q4. ハクチョウは何年くらい生きるの？

A. コハクチョウの寿命は、10年くらいと言われています。



仲睦まじく泳ぐコハクチョウの親鳥と雛鳥
撮影：平成27年1月11日

【PDF 揖斐川第二出張所（2014年12月27日付）】

もう一か所、木曾川・笠松については、知り合いに追加情報をいただいたり、インターネットで調べたところ、岐阜県笠松町の「笠松競馬場」近くの木曾川にいるようだということ、100羽近く見られる年もある、NPOがあるのでは・・・？ということが分かりました。しかし、その地名が「愛知県北方」とあり、もしかしたら岐阜のハクチョウ類ではないかもしれない…と思ったのですが、ここまで来たのでそのまま継続しました。

調べるだけでは現地の様子もわからないので、実際に見に行きました。

まず養老地域を2015年2月3日に訪問しました。

目撃情報があったり、過去に私が見たことのある田んぼを回りましたがハクチョウ類は見当たらず、うろうろしていると、突然道路下の川にハクチョウ類の群れが見つかりました。揖斐（いび）川の支流である杭瀬（くいせ）川（岐阜県大垣市横曽根）、合流地点のすぐ上流側の水面にコハクチョウ48羽（うち幼鳥5羽）が浮かんでいました。【写真 養老】



【養老】

その後群れは揖斐川へと移動しましたが、普段は養老町内に水田に採餌に上がることが多く、大垣市、輪之内町にまたがる揖斐川と、その支流である杭瀬川がねぐらになっているらしいことが分かりました。

養老町には生き物のために環境に配慮した田んぼがあり、コハクチョウは地元で温かく見守られている、と聞きましたが、このときは誰も見ている人はなく、詳しいことはわからないままとなりました。

続いて、2015年2月6日には木曽川（愛知県一宮市木曽川町里小牧）へと向かいました。愛知県と岐阜県の県境になっていて、岐阜県側（西側）の堤防を下流から上流へ向かっているときに、対岸にハクチョウ類の群れを見つけました。【写真 木曽川1】。早速対岸へ回り、その場所へ向かうと、河畔林を切り開いた状態になっていました。数年前に伐採され足元が悪かったため木の板を並べられた、とその場にい

た地元の方に教えていただきました。【写真 木曽川2】



木曽川【1】



木曽川【2】

そこには、コハクチョウ78羽（うち幼鳥17羽）がいました。昼頃到着して見ていると、8時と15時に餌をやる人が来るからもっと近くでコハクチョウが見られる、と言われたので、再び15時前に行ってみました。

エサやりをしている人は、すぐそばで解体業を営んでいる地元の方で、木道もこの方がつけたものでした。あまり多くを語ってくれない方でしたが、作業小屋に古米や麦の袋が多数置いてあるのがみられました。

NPOなのですか？と聞きましたが、その詳細は聞くことができませんでした。

他の方に伺ったところ、20年ほど前からエサやりをされているらしいが、数年前までは人があまり近づかない河畔林だったこともあり、地元の方もコハクチョウの飛来に気づいていない人が多かったそうです。

そんな2月のある日、2015年2月6日の中日新聞に「岐阜県大野町にコハクチョウ」の記事が掲載されていたことを知りました。

そんなに遠くではないので2015年2月20日に見に行ってきました。岐阜県大野町牛洞の田んぼにコハクチョウ16羽（幼鳥5羽）がいました。【写真 大野町】

数人の方が見ておられましたが、新聞記事以上の詳しいことはわかりませんでした。



【大野町】

今回調べる中で疑問がいくつか出てきました。

- ・飛来日や飛来数、飛去日を把握している人がいるか？
- ・愛知県と岐阜県のガンカモ調査結果は重複していないか？
- ・養老、木曾川とも、どこから飛来しているのか？など。

今後もこれらの地点の情報を収集して、飛来地で観察、活動されている方とお話したり、飛来日や飛来数を記録してくれる人がいないか探してみたいと思っています。

また、いずれはどのルートで岐阜県内に飛来するのも分かればいいなあ…と思っています。